

## 普及技術

平成 25 年度

殺菌剤散布と早期袋掛けの組み合わせによるセイヨウナシ褐色斑点病の果実被害低減法		
[要約]「ル レクチエ」栽培で問題となっている、 <u>セイヨウナシ褐色斑点病</u> の果実への主要感染期である開花直前～袋掛け時期に <u>殺菌剤</u> 散布を行うとともに、5月末までに <u>小袋</u> 掛け、その後大袋に掛け替えると果実被害を低減できる。		
農業総合研究所園芸研究センター 環境・施設科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

## [背景・ねらい]

近年、新潟県内の西洋なし「ル レクチエ」にセイヨウナシ褐色斑点病が発生し、中でも果実への被害が問題となっている。そこで、果実への感染時期を明らかにするとともに適正な果実袋の袋掛け時期並びに殺菌剤による防除方法を検討し、果実品質の向上を図る。

## [成果の内容・特徴]

- 1 褐色斑点病菌の果実への主要感染時期は、開花始期～6月下旬頃であり、早期に感染した果実は腐敗を生じる割合が高く著しく商品性を失う(図1)。
- 2 開花直前(4月下旬)～袋掛け前(5月末)まで褐色斑点病に農薬登録のある殺菌剤を約10日間隔で4回散布する(図1、図2)。
- 3 5月末までに、1果叢1果に仕上げ摘果した後、小袋を掛ける。続いて生理落果が終息する6月中旬以降に補正摘果を実施し、6月下旬までに小袋を大袋に掛け替える(図1)。
- 4 早期に小袋掛けを行うことによりこれまでの大袋掛け1回の作業体系に比べ、大袋掛け時期を6月下旬まで延期でき労力の分散が図られる(図1)。
- 5 殺菌剤4回散布・小袋→大袋体系の果実発病の低減効果は、殺菌剤6回散布・大袋単独体系と同等である(図2)。

## [成果の活用面・留意点]

- 1 小袋は日本なし(二十世紀)用の小型果実袋(K社製)を用いた。
- 2 開花の遅い年や5月の気温が低い年には生理落果が6月中旬まで続くことがあるため生育進度や授粉の状況に合わせて、最終着果数の2割増し程度の果実を残しておき補正摘果時に調整する。
- 3 5月末までに袋掛けが間に合わない場合並びにハードエンド、ブラックエンド等の生理障害発生園では、殺菌剤散布を継続し遅くとも6月中旬までに摘果を終了し、大袋1回掛けとする。

[具体的データ]

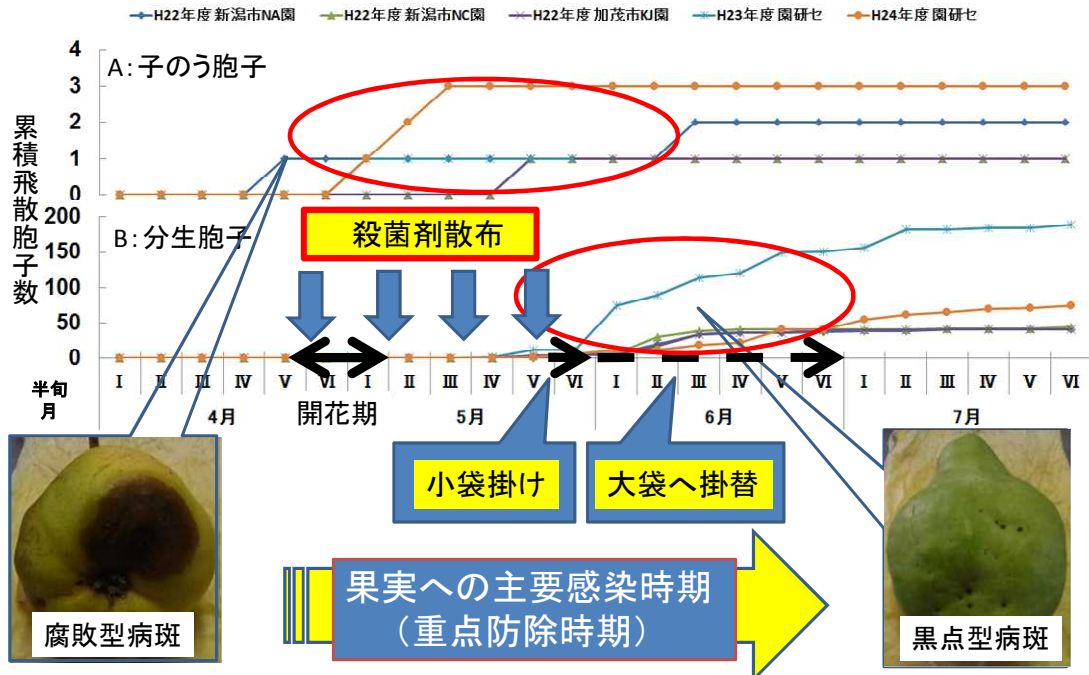


図1 セイヨウナシ褐色斑点病の飛散消長(A・B)および接種試験(写真)から推定した果実への主要感染時期とその防除対策の手順

孢子飛散: 樹冠部で捕捉, H22 ~ H24年度延べ5園地調査, 接種試験: 1680菌株の分生胞子を噴霧接種.

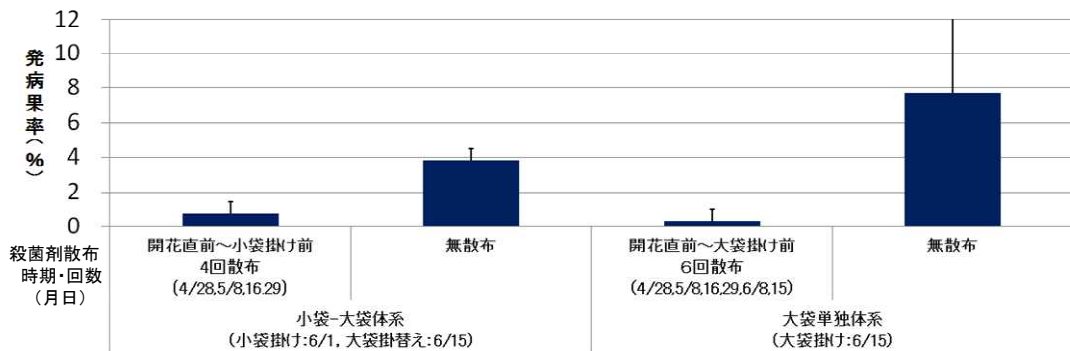


図2 開花期~袋掛け期の殺菌剤散布および袋掛けの組み合わせによるセイヨウナシ褐色斑点病の果実発病に対する低減効果

供試品種: 「ル レクチエ」(開花期: H24年5/1) 殺菌剤: 有機銅・キャプタン剤 1,000倍, 400L/10a, 6月中旬以降は慣行の薬剤防除を実施. 小袋: 日本なし用小型袋(K社製), 大袋: 西洋なし用大型袋(K社製). 発病調査: 11/9~12/3, 54~97果調査, 3反復試験, Bar: 標準偏差

[その他]

研究課題名: セイヨウナシ褐色斑点病の防除技術の確立  
 予算区分: 県単特別  
 研究期間: 平成22~24年度  
 発表論文等: なし